

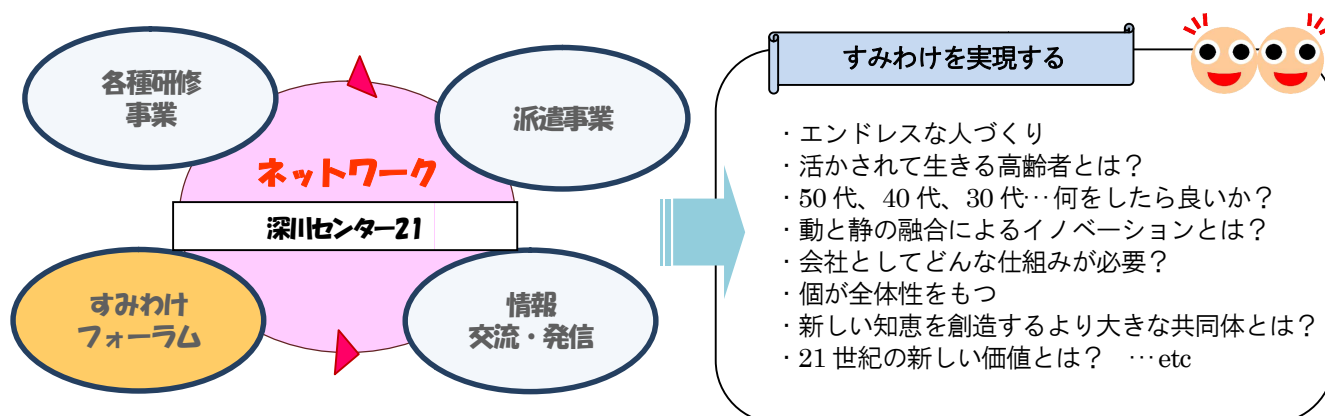
3月に入り、春が待ち遠しく感じられる今日この頃です。春は卒業や退職、入学、就職、または異動など、別れと新たな出会いがある季節です。

さて、昨年4月に一般財団法人に改組し、スタートした深川センターの新事業も徐々にお見せできるようになってまいりました。

今回は「すみわけフォーラム」についてご紹介させていただきます。

皆さまとの意見を交換しながら新しい知恵、新しい価値を提供できる場をつくってまいります。

【事業イメージ】



《すみわけフォーラムについて》

目的：「静」が「いきいきと活かされ、生きる」システムづくりのための自由な意見交換をするとともに、新しい情報や知恵を創出・提供する。

企画：「すみわけ」「動と静の融合によるイノベーション」をテーマとする雑談会。
コメントを含め、雑談会の記録を後日作成いたします。

費用：会場経費程度をご予定ください。

今後、日本の産業が世界で「すみわけ」ていくために高齢者の経験や知恵がますます必要になっ

てまいります。自由な意見交換を通じて、知恵、情報、ノウハウなどの気づきを得られる、フォーラムを皆さまとつくってまいりたいと考えております。

第1回すみわけフォーラムは4月23日(水) 10:00~を予定しております。詳細は次号でお知らせいたします。ぜひご参加ください。ご不明な点は下記までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：深川高齢者センター21

TEL：03-3643-5491

担当：岩崎、手島

【コラム】 “ 静の世代”

当財団では若い世代（20、30、40代）を「動」とベテラン世代を（50、60、70代）「静」と大まかに分け、それぞれの世代のありたい姿を考えています。今回は「静」の世代について考えてみたいと思います。

21世紀に入り10年以上、私たちを取り巻く環境や社会は常にしかもダイナミックに変化しています。市場やお客様からのニーズも多様化、高度化、複雑化し、良いといわれた価値観も短期間で陳腐化します。企業はそのようなさまざまな要請やニーズに応えながら生き続けなくてはならず、それには要求されていることの本質を的確につかまなくてはなりません。

私たちは、企業活動において、その本質を的確に掴むところに静の世代がもつ経験、勘、知恵袋的な機能が大いに発揮されると考えています。長い間に成功と失敗を繰り返しながら習得してきたものの見方、考え方、人間関係の築き方、物事に対する深い洞察力、理解力、背景を掴む力…等々をもっている静だからこそ、物事を一面からではなく、多方面から、俯瞰的に、深く見ることができ、市場やお客様が必要とされていることを掘り取ることができるのではないのでしょうか。

一方で、物事を実現するパワーや行動力、変化に対してスピーディに適應するのは若い世代＝動が得意とするところ です。

この静の深い洞察力から掴んだ本質的なニーズを若い行動力でモノにすることができれば、21世紀のニーズに的確に応えられる商品やサービスを提供することができ、すなわちすみわけに一步近づくことになると考えられます。

当財団を設立した前川製作所は昭和51年に「マエカワは55歳をこう考える」という冊子を社内に発表し、静の世代の働きについて考え始めました。静の能力がいかに高くても、静だけでは力を

発揮しきれません。静として得意と持ち味をいかし、周囲からも評価され、必要とされ、職場において「活かされて生きる」関係性を築き、静の充実した人生をいかに送るか、そのためにどのように動の時代を送るべきかということを追求してきましたが、まだまだ答えは出ていません。

これからも、「静の世代が充実した人生を送るにはどうしたら良いか」「動の世代とともに新しい価値を創出するためにはどのような仕組みや環境が必要か」といったことを、当財団の事業やフォーラムを通して、皆さまと考え、意見を交換しながら、新しい知恵を創っていきたいと考えております。

下図は前出の「マエカワは55歳をこう考える」の中で動と静の世代が一緒につくる企業文化のイメージ図です。皆さまは「動（若手）と静（ベテラン）」といったときに、どのようなイメージをお持ちになりますか？

〈動と静がつくる企業文化イメージ〉

